

## 『学生生活を振り返って』

脇屋 迪佳 (No.4219)

社会に出て約半年、現在は病院薬剤師として働いています。忙しいながらも、中学生の頃から漠然と夢見ていた薬剤師としての毎日は、大変充実しています。

私が薬剤師を目指すきっかけとなったのは、小学生の時に祖母をがんで亡くしたことです。子供ながらに、病気で苦しむ人を救いたいという思いを持ったことを覚えています。実際に薬学部に入り、授業が多くて大変なこともありましたが、部活動でやっていたダンスやアルバイトなどで息抜きもしながら、楽しい学生生活を送りました。学年が上がるにつれて臨床に近い授業や実習が増え、将来の進路を考え始めたとき、患者に心から寄り添える薬剤師になりたいという思いと、そのために病院で働きたいという思いが強くなっていきました。そこで、卒業論文のテーマとして基礎研究ではなく、臨床と関わりのあるテーマを選び、病院と共同研究を行いました。共同研究先の病院では研究以外にも、病院薬剤師の仕事の大切さや責任を改めて痛感し、そのことが就職先として病院を選ぶ決定打にもなりました。また、論文を医療系の学会で発表したことで、臨床で活躍している医療従事者から様々な意見をいただくことができ、大変良い経験になったと感じています。

実際に薬剤師として働き始めて、授業では習ってこなかったことや自分の知識不足を痛感することも多々あります。しかし、同時に大学で学んできたこと、卒業研究で臨床に関わったこと、学生のうちから学会発表ができたことなど大学で過ごした6年間は土台になっているように思い、大変有意義な大学生活だったと感じています。今後も、一人でも多くの患者に寄り添うことができる薬剤師になれるよう、日々勉強しながら奮闘していこうと思います。



(職業：薬剤師)